

丸山湿原群保全の会会報

(第 177 号)

発行日：2022 年 (R4) 4 月 20 日 編集/発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com

戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します

2 月 24 日のロシアによるウクライナ侵攻から早 2 か月、何がどうなっているのかいまいちよく分からない状況のまま今日を迎えています。SNS やメディアを使ってのプロパガンダ。どの情報が正しく、何が嘘か見極めるのも困難な状況。日本で得られる情報が必ず正しいと思っているとひょっとするとひょっとするかもしれません。何事にもリテラシー能力が問われる時代、悲しいですが、まずは疑ってかかることが大事なのかもしれません。

「信頼はしても、信用はするな」です。

本当と思い発信していることは山ほどあります。ところが後日完全に間違いと気づくことも。(指摘もあるな) 間違いはできるだけすぐ訂正。信用は無くすかもしれませんが、信頼は確保される? この会報も「信頼」され続けたいものです。間違ふことは多いですが…。

こんな事を言っている間にも戦争は続き、人が犠牲になり、文化、生活、環境も破壊され続けています。実は世界のあちこちで戦闘(紛争?) は起こっているのです…この事実にも気づかず…美しい自然の回復と、人々の平穏な生活が一日も早く訪れることを願います。戦争反対!

(今住 4 月 19 日作成)

定期活動 ★3 月 27 日 (日) 定期活動 第 4 湿原後始末? 定点カメラ設置

9 名で活動(体験 1 名を含む)



やっぱり地味な作業です

年度最後の活動です。今回は体験参加者と年度締め監督も登場。作業は第 4 湿原の放置又マガヤ整理と残りの刈り取り。天気も良く、春というより初夏の陽気。タムシバ(田虫葉)が咲き始め。気持ちよく作業ができました。その作業途中でビックリしたことが。2 月末に実施した「両生類卵塊数調査」。第 4 湿原でも 1 対のセトウチサンショウウオ(瀬戸内山椒魚)の卵囊が確認されていたのですが…なんとこの作業中に 27.5 対(27 対と 1 片)の卵囊が見つかりました。発生はかなり進んでいて黒く、鰓(エラ)ができかけているものも。大体がシルトに半分埋まるように。第 4 湿原でこんなに見つかるとは思っていませんでしたので、うれしいやら驚くやらの活動となりました。

実はこの第 4 湿原、昨年は作業が間に合わず又マガヤ刈り取りをしていない。しかし今年は 11 月中(産卵前)に 7 割の刈り取り実施。このへんのさじ加減と産卵、関係があるのでしょうか?



これだけで4対はある卵囊

「**かり**写るんちゃうん？」と別の意味で不安も抱えつつ。さて結果は。次回活動までお待ちを…とっていたのですが、**気**になる。**翌日確認に。ぱっちりシカさんが写っているではありませんか！**

川西や猪名川、能勢方面では何を今さら「シカ？」と言われてそうですが、西谷は比較的被害が少なかった地域。イノシシ被害中心に対策が講じられてきました。

近年シカの出没も増え、丈の高いメッシュ柵やピンクテープ（ピンクに意味があるか不明）などが田んぼや畑の周りに張り巡らされています。ただ、「妙見山」のような「シカの食害による下層植生の消失」までにはなっていないと思われます。昼間、そこらじゅう走り回ってないしね。この時点で丸山出没のシカは単独で来ているという認識でした。



3月27日 21:00頃 記念？の1頭

さらに別の生き物も写っていました。恐れていた**アライグマ（浣熊）**です。水の中に手を突っ込んで手当たり次第、口に入れる。（食べるかどうかは？）セトウチサン ショウウオのかじられた死骸も何度か見えています。ちぎられた卵囊も。これはアライグマの仕業だったのでしょうか？丸山湿原まで進出しているとは驚きでした。両方とも昼間は出ていないようです。

対策は必要なのか。方法は？わーかーらーなーい〜！



定点カメラ 監視？カメラとも



監督の確認 ほんまに写るん？

はなみずき保育園登場 ★3月29日（火）本園 30日（水）分園 今回は山登り???



ポストいっぱいやん どここれよ？

しばらく音沙汰がなかった「はなみずき保育園」から連絡をもらいました。「急で申し訳ありません。しかも今回は1時間強の（短い）プログラムで」と。

しばらくの「塩対応」にもう我々のサポートは必要ないのか？とっていた矢先でした。実は「塩対応」ではなく園外活動を「塩漬け」にしていたとのこと。コロナ禍の中で様々な問題があったとか。（正確な情報かは？）園内では大変のびのび楽しんでいましたようです。



湿原とうちゃーく！



上ってるのか？下ってるのか？



出た！



ロープでズリ下り

も…「ヤッホー！」山が近くに無いから「ヤマビコは無し」。残念。

その後新たな「ズリ」を求めながら下山。第3湿原北側に下って行きます。木をくぐって急な「ズリ」へ。そこにロープをかけて「ズリ」下り。勇敢な子はロープ無しで、ちょっと恐い子はロープをしっかりと握りしめて。何とか全員下ることができました。下った後のズリ移動の方が「グチャグチャ」で面白かったかな？

駐車場まで戻って解散！あと数日で小学1年生。保育園最後の

いつも「神対応」の保全の会。どんなリクエストにもお答えいたします。ホンマかいな？ で、早春ということもあり、湿原本体ではなく「シルト供給源」と言われる「ズリ(はげ山)」へご案内。しかも道なき道を。駐車場到着時のレクチャーで「伊之助(『鬼滅の刃』ね)になるのだ！」と。イノシシ(獣)の気持ちになって山登り。山の中は木が生い茂っているようでも、よ〜く見ると何やら道らしきものが見えてきます。まさしく「獣道」。噂によると獣類(イノシシ・シカ・タヌキ・ウサギ・キツネなど)はだいたい同じ道を使っているとか。「人が歩くところに道はできる」と同じです。「獣歩くところに獣道ができる」か？しかもこの時期は葉っぱが少なく見通しもいい。「自分で道を探して山頂へ行けたらいいな」という企画。さてうまく行くか？

第3湿原まではいつものルート。スタッフはなぜかロープを肩にかけて進みます。竹筒ポストに石。すでにオーバーフロー気味。「入るところに入れといて！」とまた適当なことを言っていました。春先は来る人が多いからね。小川を見て「秘密の場所行っていい？」夏場の水ジャブジャブが思い出されます。今回はダメ！あちこち興味は尽きず(子どもは素晴らしい)、寄り道しながらも第3湿原南に到着。

さあここからが「伊之助」。湿原脇から山へ。伐り倒された柴や木を乗り越え進み…。といっても里山整備(間伐)された山。結局、列になって登ることに。(思うようになかなかならんもんです…。)しか〜し、山頂までの数メートルは未整備。「勝手に来い！」もちろん大人は分散して見守りながら。大人の方が苦労しているかもしれませんが。サイズの子どもの方が歩きやすい。

そして見事全員クリア。「ズリ」到着です。スッコーンと開けた場所に驚いた？突然のでっかい砂場。ズリを稜線沿いに先端まで。すると素晴らしいロケーションが開けているではありませんか。標高は僅か300mながらも、北向きに「西谷の森公園」や「大野山(猪名川)」「るり溪(京都)」まで見通せます。と言いながら本当はどこがどこかさっぱりわからず。情けない。ま〜見晴らしがよく眺めがよければ自然に「ヤッホー！」子どもも大人も



ズリを移動 すべるすべる！

西谷訪問でした。小学校もしっかり楽しんでください。**興味は宝！なんにでも関心を。「なんで？なんで？」を大切に。** 妙に説教じみしました。また来てね！

(本園、分園ともほぼ同じ内容だったので一つに…)

定期活動★4月9日(土) 基礎調査 ほとんど散歩！ 9名で活動(体験1名を含む)

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	50	43	入口	9:55	20.1℃		
ハイキング	41	35	第3湿原	10:25	【17.1℃】	32.8 μS/cm	6.9
散歩・登山	68	41	視点場	10:40	26.2℃	31.7 μS/cm	6.8
来場者数 278 計人 (竹筒ポスト人数)			第1湿原	10:50	【17.3℃】	30.1 μS/cm	6.8
			第2湿原	11:10	【15.8℃】	32.7 μS/cm	6.8



4月6日0:00頃



4月6日4:30頃



4月6日23:00頃 気温10℃

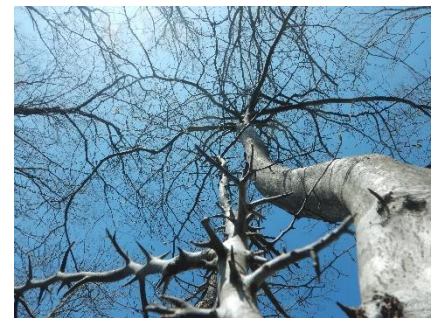


4月9日5:50頃 気温4℃ 若い2頭の戯れ？ は…ほぼ毎日シカが来ているようです。**雌の群れ(ご家族?)**。長い時は6時間近くおられるようで、湿原に対するインパクトはどうなるのでしょうか？トキソウの花を好んで食べるという話も。深い湿地には入らない？カメラの位置を変えるなどして観察を続けます。動画を Blog に Up していますのでよければご覧ください。<https://maruyama-shitsugengun-hozennokai.blogspot.com/> (HP からも見ることが出来ます) 楽しそうな動物には罪はない。が！

朝方は冷え込みましたが昼間は夏のように。久しぶりに基礎調査だけの日となりました。ほぼ散歩。ただ竹筒がいっぱいで溢れかえっていました。キャパオーバー。目安だからいいとするか、もう少し大きいサイズを考えるか、思案中です。

夏のような春。芽吹き始めの木々。画像はオオウラジロノキ(大裏白の木)。ヤマカガシ(赤棟蛇)も出てきました。昆虫も多く飛び出し、最後にはエントランス付近でギフチョウ(岐阜蝶)も2匹(2頭)確認できました。そろそろ最盛期のようなようです。コバノミツバツツジ(小葉の三葉躑躅)は咲き始め。ギフチョウも大好き？な蜜源です。季節の移ろいに不安を感じる昨今ですが、「フェノロジカルミスマッチ(生物季節のズレ)」はとりあえず大丈夫のような気がします。

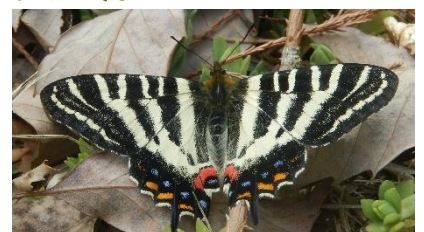
ただ、定点カメラの画像に



芽吹き出したオオウラジロノキ



若いヤマカガシ



ギフチョウ 4月11日境野にて



コバノミツバツツジ 4月9日